

檀信徒各位

## 御忌法要のご案内

聖名 新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

さて、例年1月の「御忌法要」<sup>ぎよきほうよう</sup>を迎えることになりました。

日本のお念仏の元祖、浄土宗開祖（法然上人）<sup>ほうねんしょうにん</sup>の祥月命日<sup>しょうつきめいにち</sup>にあたる1月25日の法要です。

浄土宗久留米門中寺院ご出仕のもとに、下記の通り勤めます。ご多忙の折柄、恐縮乍ら、何卒万障お繰り合わせご参詣下さいますよう、ご案内申し上げます。 合掌

平成22年1月上浣

無量寺 住職 堤 俊翁 拝

### 記

※期 日 1月25日（月）

※時 間 午後1時より御 回 向（普通回向）  
午後2時より法話

※布教師 山上 光俊 上人（向西寺）

※ご回向料

普通回向 1霊 1,000円以上

※お供え米、お供え米料 随意ご志納下さい。

毎日の本尊様のお供え、お花代等にさせていただきます。

※郵便振替等で申し込まれる方も位牌型をお送り下さい。

## 釈尊の生涯 苦行の日々

もはや求める師もなく、太子はラージヤグリハの西南方にあたるウルヴィルヴァアのセーナ二にほど近い苦行林へと、目的達成の新しい道を求めて行った。この地にはなだらかな丘もあり、緑いろ濃い林もあり、水の流れも清らかで、多くの修行者がそこに集まって、おのおの自分の目的に向かって道を求めていた。太子もこの美しい土地こそ道を求める者にとつて最も適したところであると思い、決意をあらたにして苦行を始めた。

苦行は肉体を極度に苦しめることによつて、精神の自由が得られる最適の方法と考えられていた。太子は当時の修行者が行っていたように、徹底した苦行を試みられたが、やがていたずらに肉体を苦しめても精神の自由は得られず、ただ肉体が極度に衰弱するばかりであることに気づかれた。

ちやうどこのころ、出家した太

子の身の上に気づかわれた父王から、太子の身辺を見守るために派遣されたカウンディニヤら五人の従者たちは、太子の苦行のありさまを見て驚きの目をみはった。太子の苦行はまさに生死の境にまで自分の生命を追いつめていた。

この時、ナイランジャナー河の堤を、「いざわれは琴を鳴らさん、張りすぎても鳴らぬ、弱すぎても鳴らぬ、ほどほどの調子にしまして、われはいざ、琴を鳴らさん」と歌いながら通る農夫の歌を聞くともなく耳にされた太子には、なにか心にふれるものがあつた。このような烈しい苦行をいくら努めてみても、出家の目的を果たすことはできない。苦行が厳しければ厳しいだけ効果があると思ひこんでいたにもかかわらず、

実際には極度に衰弱しきつた肉体からは、かえつて不安と焦燥がつゆるばかりであることを体験されて、ついに苦行を中止されたのである。

## 仏教的ターミナル・ケア 第3回

### 看病御用心 良忠上人

現代語訳

敬つて知識、看病人に申し上げます。人間が極楽往生することは、誠に人生において一大事の因縁ごとです。もし知識の慈悲の心による念仏の勧誘がなかったならば、どうしてこの一大事を成し遂げることができませんでしょうか、とてもできはしないでしょう。それ故に病人は、知識に對して仏を拝するのと同じような思いをなし、知識もまた病人に對して慈悲の心をもつて、我が子に接するようにしなさいと言っています。

そこでここでは病人の心中に思うところを把握なさつて、病床に臥したその時から、死に至るまでの間、看病人として心得ておくべき事柄を記し申し上げておきます。

一、病人の近くには、目につきやすく、心が乱されるようなものを決して置いてはなりません。室内には香をたき、華を散らして、常に病室を飾るのがよいでしょう。また時折香をたき、頃合いを見計らつて、看病人も交替で休ませなさるのがよいでしょう。病気が軽いからと思つて気をぬいてはよくありません。人の命の終わるのは一瞬のうちのことなのです。決して病人から眼をはなしてはなりません。また看病人を休憩させなさろうと思つても、病人の傍からあまり遠くなく、その息使いが聞こえる程度のところで休ませなさい。また日が暮れたならば、あかりを明るくともして、仏像の姿がはっきりと見えるように拝ませ、かつ病人の様子をもよくうかがえるようにして、様子をご覧になるのがよいと思われま

す。病の常として、夜は必ず具合が悪くなるからです。

続く

# 平成二十一年度年回繰出し表

平成 22 年 1 月 1 日

## 一周忌

平成二十一年

永松 俊夫 殿  
上田 峯資 殿  
塚本 末男 殿  
増田 和子 殿  
上野 泰彦 殿  
笠弘 殿  
吉田 昌子 殿  
緒方 清 殿  
熊丸 都 殿  
島 一夫 殿  
勝山 守雄 殿  
内田 慶子 殿  
森山 整 殿  
四力所 智恵歌 殿  
鈴木 敦子 殿  
藤吉 晃 殿  
南里 と美 殿  
高山 俊春 殿  
松石 大祐 殿  
山口 信子 殿  
寺崎 廣美 殿  
小山 勝美 殿  
河原 フミ子 殿

富田 弥生 殿

倉富 俊一 殿

伊東 弘子 殿

大塚 春子 殿

城戸 ヨシエ 殿

熊丸 タカエ 殿

三根 君子 殿

稲益 利夫 殿

木本 ヨシコ 殿

高田 夏樹 殿

下川 渡 殿

森山 尚子 殿

占部 シゲノ 殿

馬場 鶴代 殿

## 二回忌

平成二十年

富田 弥生 殿  
河原 克利 殿  
笠 隆雄 殿  
太田 秀次 殿  
梅津 香子 殿  
太田 シヅカ 殿  
城戸 フヂエ 殿  
阿部 導裕 殿  
中原 輝夫 殿  
田中 和子 殿  
古賀 浩 殿  
熊丸 直之 殿  
濱崎 フサエ 殿  
熊丸 春子 殿  
佐藤 弘文 殿  
平田 敏夫 殿  
坂井 照美 殿  
重松 マサノ 殿  
熊丸 るり子 殿  
笠井 春磨 殿  
池尻 秀吉 殿  
石浦 均 殿  
鐘江 トモエ 殿  
鐘江 スミカ 殿  
馬場 アサヲ 殿  
馬場 ミドリ 殿  
別府 惠 殿

熊丸 隆喜 殿

田中 マサヨ 殿

森 茂子 殿

原田 カズエ 殿

橋本 コミエ 殿

高橋 重紀 殿

別府 澄江 殿

河野 オシモ 殿

堤 秋雄 殿

笠 美義 殿

笠 重男 殿

千葉 一子 殿

山田 進 殿

青木 渥子 殿

古賀 卓一 殿

橋元 菊枝 殿

海田 泰明 殿

庄山 妙子 殿

戸田 梅子 殿

平野 實 殿

山口 敏子 殿

宮原 文枝 殿

川原 隆夫 殿

深野 櫻子 殿

## 七回忌

平成十六年

江上 信男 殿

井上 司郎 殿

宮原 軍治 殿

上野 安子 殿

久富 鶴夫 殿

高浪 孝子 殿

鳥越 シヅエ 殿

山下 金蔵 殿

堤 敏明 殿

城後 正之 殿

井上 覚 殿

室田 ユリ子 殿

藤村 隆夫 殿

高田 齊彦 殿

熊崎 マツ子 殿

中島 猪二郎 殿

中原 トヨノ 殿

江上 忠男 殿

渡邊 和子 殿

小島 研二 殿

橋爪 スメ 殿

與賀田 啓 殿

中原 幸枝 殿

深野 ツタエ 殿

青木 ミチヨ 殿

武谷 シズカ 殿

笠 モモエ 殿

吉武 祥夫 殿

前田 トクエ 殿

古賀 武雄 殿

鶴久 トミ子 殿

園昌 昭一 殿

宮崎 美恵 殿

久光 正治 殿

大塚 萬蔵 殿

郡 マサコ 殿

北村 美和子 殿

中原 廣一郎 殿

安永 順子 殿

堤 久子 殿

小野田 右二 殿

田中 亘 殿

岡崎 伸雄 殿

富澤 日出夫 殿

## 十三回忌

平成十年

三笠 博行 殿  
小島 マキ 殿  
山口 泰明 殿  
江上 ミサオ 殿  
中野 一典 殿  
広木 国男 殿

堀田 愛人 殿	塩塚 キミ子 殿	熊丸 義則 殿	岩瀬 敏夫 殿	笠 里輝也 殿	甲斐田 弘 殿	山本 博章 殿	浅田 ハルミ 殿	田中 榮 殿	安藤 サカ 殿	笠井 ハルヨ 殿	岩瀬 俊明 殿	野村 賢治 殿	佐藤 陽一 殿	与賀田 敏子 殿	別府 宗一郎 殿	高田 林弘 殿	梅津 利 殿	海田 欣育 殿	小松 清次 殿	古賀 トキエ 殿	井上 一 殿	田中 タネ 殿	奥田 真一 殿	今村 淳 殿	別府 懸 殿	中原 トシ子 殿	江上 キミ子 殿
---------	----------	---------	---------	---------	---------	---------	----------	--------	---------	----------	---------	---------	---------	----------	----------	---------	--------	---------	---------	----------	--------	---------	---------	--------	--------	----------	----------

堀辺 ミネコ 殿	豊福 カツエ 殿	野田 桃枝 殿	海老名 正浩 殿	中原 勝 殿	山田 章 殿	野田 正夫 殿	弥永 フチ子 殿	高橋 節代 殿	石橋 トヨノ 殿	高山 じゅん 殿	古賀 正己 殿	天羽 伝 殿	篠原 義文 殿	平成六年	笠 崇子 殿	笠 崇子 殿	有松 トミ 殿	星野 ツユ 殿	廣川 トシ子 殿	牛島 富子 殿	笠 一 殿	笠 (良光孩子) 殿	高山 カズエ 殿	山本 覚山 殿	熊丸 孝義 殿	笠原 米生 殿
----------	----------	---------	----------	--------	--------	---------	----------	---------	----------	----------	---------	--------	---------	------	--------	--------	---------	---------	----------	---------	-------	------------	----------	---------	---------	---------

十七回忌

坂井 ヒサヲ 殿	石田 ハツ 殿	加藤 トミエ 殿	田島 敏生 殿	笠 康隆 殿	今村 昇 殿	広木 よね子 殿	庄山 高治 殿	中原 澄枝 殿	奥田 シカ 殿	笠 カツヨ 殿	上野 トシ 殿	久光 明 殿	堤 キクエ 殿	笠 キミ子 殿	笠 竹次 殿	青木 定次郎 殿	川島 巖 殿	前田 芳子 殿	野田 トシ子 殿	牛島 弘 殿	片桐 達也 殿	井手 ツルヨ 殿	中原 良泰 殿	山口 ツヤ 殿	田中 数馬 殿	古賀 羊子 殿
----------	---------	----------	---------	--------	--------	----------	---------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	--------	----------	--------	---------	----------	--------	---------	----------	---------	---------	---------	---------

二十五回忌

山田 トメヨ 殿	三国 正義 殿	堤 英則 殿	木下 テル 殿	近藤 正夫 殿	古賀 士毅 殿	藤井 哲治 殿	笠 モト 殿	笠井 雁教 殿	坂本 トモエ 殿	江崎 イツエ 殿	柳瀬 トメ 殿	田中 ヒサヲ 殿	納戸 誠四郎 殿	昭和三十二年	中原 カメコ 殿	佐藤 幸雄 殿	小川 マツエ 殿	中村 甫 殿	山本 美喜子 殿	近藤 睦子 殿	皆 宮喜 殿	平田 ハナコ 殿	鶴久 春男 殿	青木 美奈子 殿
----------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	----------	----------	---------	----------	----------	--------	----------	---------	----------	--------	----------	---------	--------	----------	---------	----------

下川 春子 殿	酒見 ジュキ 殿	武田 ミサ 殿	林 吉幸 殿	毛利 純之 殿	党 初子 殿	笠 キクエ 殿	川原 重雄 殿	弓削 光与 殿	別府 幸子 殿	海田 ハルカ 殿	佐藤 千代 殿	中島 嘉次郎 殿	平木 四郎 殿	熊丸 クノ 殿	北川 正治 殿	案納 キクエ 殿	灰塚 重人 殿	田中 サカエ 殿	後藤 好雄 殿	熊丸 詠士 殿	笠 ヒトエ 殿	池尻 いつ子 殿	川原 ミツエ 殿	中原 喜久雄 殿	佐々木 七郎 殿	辻 美雄 殿	寺崎 清 殿
---------	----------	---------	--------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	----------	---------	----------	---------	---------	---------	----------	---------	----------	---------	---------	---------	----------	----------	----------	----------	--------	--------

三十三回忌

永田 喜熙 殿	黒岩 鵬 殿	山田 陽造 殿	佐藤 ツネ 殿	田中 一郎 殿	成富 シマ 殿	築山 シカヨ 殿	平野 マサエ 殿	本村 久子 殿	古賀 マチ子 殿	古賀 義信 殿	篠原 ツネ子 殿	中原 政満 殿	高山 ミ子 殿	高浪 治子 殿	澤 トリ 殿	平木 テルヨ 殿	吉原 キク 殿	平田 泰 殿	熊丸 富藏 殿	津福 留夫 殿	青木 ツギノ 殿	海田 四郎 殿	井手 千代子 殿	井手 千代子 殿
---------	--------	---------	---------	---------	---------	----------	----------	---------	----------	---------	----------	---------	---------	---------	--------	----------	---------	--------	---------	---------	----------	---------	----------	----------



# 筑後三十三観音霊場

江戸時代中期、「久留米藩の吉宗」といわれるほど善政を尽くした筑後国久留米藩第七代藩主有馬頼ゆきによって創立された「郡中三十三観音札所」に始まる歴史ある観音霊場である。

観音様建立一万卷写経



写真はイメージです

## 14日会（念仏と写経の会）

- 1、日 時 毎月第3土曜日但し、8月はお休み  
午後3時より勤行とお念仏  
(日常勤行式 浄土宗のお勤め)  
引き続き 写経会  
※お勤めだけ、または写経会のみのご参加も歓迎します。
- 2、場 所 無量寺 2階 本堂にて
- 3、参加費 無 料  
写経用紙(和紙)は準備しております。(実費をお願いします。)  
用具は各自お好みのもの  
(筆、すずり、墨汁、サインペン等)をご持参ください。  
筆ペンを多少準備しております。  
納経を希望される方は 納経料 1巻 1,000円をご志納下さい。  
(納経料は積み立てて、観音様建立の資金といたします。)

### 第1番 福聚寺 臨済宗

久留米市合川町2-1

### 第2番 観興寺 曹洞宗

久留米市山本耳納

### 第3番 観音寺 天台宗

浮羽郡田主丸町石垣

### 第4番 清水寺 臨済宗

浮羽郡浮羽町山北

### 第5番 法音寺 曹洞宗

浮羽郡田主丸町徳富962

### 第6番 慶雲寺 浄土宗

三井郡大刀洗町本郷4553

### 第7番 霊鷲寺 臨済宗

小郡市松崎薬師町

### 第8番 如意輪寺 真言宗

小郡市横隈1728

### 第9番 福聚庵 黄檗宗

小郡市大板井

### 第10番 普濟寺 臨済宗

小郡市下西鱒坂295

### 第11番 因分寺 天台宗

久留米市宮の陣

### 第12番 円通寺 臨済宗

久留米市宮の陣大社

### 第13番 千徳寺 臨済宗

三井郡北野町十郎丸2072

### 第14番 円勝寺 曹洞宗

三井郡北野町石崎

### 第15番 安因寺 臨済宗

久留米市山川町神代2072

### 第16番 医王寺 真言宗

久留米市寺町35

### 第17番 少林寺 臨済宗

久留米市寺町

### 第18番 無量寺 浄土宗

久留米市本町814

### 第19番 日輪寺 臨済宗

久留米市京町6

### 第20番 朝日寺 臨済宗

久留米市大善寺町夜明

### 第21番 寛元寺 臨済宗

筑後市西牟田町寛元寺

### 第22番a 板東寺 天台宗

筑後市熊野1012-1

### 第22番b 大聖寺 曹洞宗

八女郡広川町牟礼茶屋

### 第23番 光明寺 真言宗

筑後市津島807

### 第24番 普光寺 天台宗

大牟田市今山253

### 第25番 慧日寺 黄檗宗

大牟田市岩本2589-1

### 第26番 帝釈寺 黄檗宗

三池郡高田町上楠田

### 第27番 甲山寺 天台宗

山門郡山川町原町451

### 第28番 清水寺 天台宗

山門郡瀬高町本吉

### 第29番 永興寺 天台宗

山門郡瀬高町大草901

### 第30番 浄福寺 天台宗

八女郡立花町山下

### 第31番 大光寺 臨済宗

八女郡立花町北山

### 第32番 円通寺 曹洞宗

八女郡広川町新代川瀬909

### 第33番 霊巖寺 臨済宗

八女郡黒木町笠原下鹿子尾9731